

日本学術会議フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会  
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会  
ESD/SDGs カリキュラム小委員会（第 25 期第 4 回）小委員会 議事要旨

日 時：2021 年 11 月 20 日（土） 13：00～15:10 オンライン会議

出席者：（小委員会委員）小金澤孝昭、氷見山幸夫、新井雅晶、石原靖久、及川幸彦、小玉敏也、小林亮、島田智、鈴木克徳、棚橋乾、安田昌則、小田宏信（オブザーバー）遠藤宏紀、佐々木哲弥、下地徹、高倉洋美、嵩倉美帆、廣脇正人

## 1. 分科会ワークショップについて

氷見山委員および小金澤委員長より 12 月 19 日実施予定の「持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会」主催のワークショップについて、次の通り報告があった。

- ・公開ワークショップとして実施する。
- ・コメンテーターおよび司会者を依頼済み。司会は山口しのぶ連携会員。
- ・本小委員会からは安田委員、島田委員、小玉委員に報告をお願いしている。

## 2. 研究報告

次の 4 つの研究報告がなされ、これに基づいて意見交換を行った。

- 1) 氷見山幸夫委員「環境地図展と ESD, Future Earth, SDGs」：1991 年旭川で「環境変化と地理情報システム国際会議」を開催、付帯事業で始めた全国区の環境地図展は今年 31 回目を迎えた。この間環境、地図、教育、地理、持続性を中心に活動し、EOLSS の編著、グローバル環境教育、土地利用変化研究、世界の地理学界の持続性科学・教育への取組みの推進などで成果をあげた。持続社会実現には ESD, Future Earth, SDGs の強化だけでなくそれら相互の理解と連携の強化、国際学術会議とユニオンの取組みの強化が重要である。
- 2) 石原靖久委員「海洋観測から見る気候変動～地球温暖化を海からみると・・・～どうやって測るの？いま何が起きているの？～」：地球温暖化について、IPCC の AR5 より、大気-海洋結合モデルのひとつである MIROC5 の地上 2m 気温の温暖化シミュレーション結果を提示したあと、海洋の立場から、観測の方法や観測精度などの情報を交えながら、海洋温暖化の現状（蓄熱容量の増加）ならびに、それにまつわる影響（海面上昇や 2012 年の九州豪雨など）を紹介した。また、教育分野で「海洋の変化を自分事として捉える」うえでの私見を述べ、活用できそうな素材の紹介を行った。
- 3) 新井雅晶委員「未来を見据えた学校教育のデザイン：学校教育に ESD-SDGs を導入するポイントを考える」：ESD-SDGs を視点とした教育の推進が急務であるが、一般校では未だに十分に実施されていない。この現状を受け、学校教育に ESD-SDGs を導入する上での 5 つのポイントを指摘した。①変容の学びの場の保障する、②対立やジレンマを克服する力に視点を絞る、③地球市民を育成している指導観をもつ、

④感性への指導を欠かさない、⑤子供を参画させ地域の学習共同体を作る。以上の点を考慮したカリキュラム作りや学校体制の整備が重要であると述べた。

- 4) 棚橋乾委員「ESD・気候変動教育とホールスクール・アプローチ」: ユネスコ・OECD・Education International が共同で進めている“Conversations on Teaching for Climate Action”に参加した経緯や、投稿したビデオ作品について解説した。その中で、欧米では気候変動教育に対する意識が高いことを指摘した。さらに、ESDとして気候変動教育を進めるには、学校が教育課程全体で取り組む、ホールスクール・アプローチが必要であることと、日本の学校教育の特性として“カリキュラム”の位置づけを明確にすることの必要性を指摘した。

### 3. その他

- ・小林委員より 5th UNESCO Forum on transformative education for sustainable development, global citizenship, health and well-being (11月29日～12月1日) の開催案内があった。
- ・及川委員より海洋教育国際シンポジウム (12月5日) の開催案内があった。

以 上